

# Dell Command | Intel vPro Out of Band

バージョン 3.1

ユーザーズガイド



## メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

<b>章 1: 概要</b> .....	<b>5</b>
新機能.....	5
対応オペレーティングシステム.....	5
対応クライアント オペレーティング システム.....	5
AMT で管理されたクライアント システムの対応オペレーティング システム.....	6
対応サーバ オペレーティング システム.....	6
<b>章 2: Dell Command   Intel vPro Out of Band のインストール</b> .....	<b>7</b>
Dell Command   Intel vPro Out of Band をインストールするための前提条件.....	7
Dell Command   Intel vPro Out of Band のインストール.....	7
インストーラの修復オプションの使用.....	8
Dell Intel vPro AMT プラグイン バージョン 1.1 または 1.0 からのアップグレード.....	8
Dell Command   Intel vPro Out of Band のアンインストール.....	8
<b>章 3: Dell Command   Intel vPro Out of Band の使用</b> .....	<b>9</b>
Dell Command   Intel vPro Out of Band の起動.....	9
Dell Command   Intel vPro Out of Band を使用する前に.....	9
WinRM の設定.....	9
設定.....	10
アカウントのセットアップ.....	10
KACE アカウントのセットアップ.....	10
インジケーション.....	11
KVM.....	11
タスクキュー.....	11
ロギング.....	12
USB プロビジョニング.....	12
USB デバイスを使用したプロビジョニング.....	12
クライアントの選択.....	13
インジケーション.....	13
推奨フィルタとオプションフィルタ.....	14
ポリシー.....	14
サブスクリプションの設定.....	15
サブスクリプションのステータス.....	17
イベント.....	18
クライアントの設定.....	19
電源プロファイルの設定.....	19
起動順序の設定.....	20
BIOS 設定の指定.....	20
BIOS パスワードの設定.....	21
操作.....	22
KKKVM セッションの確立.....	22
電力管理の実施.....	22
クライアントデータの消去.....	23
レポートの生成.....	24

レポートのスケジュール.....	24
レポートの取得.....	25
タスクキュー.....	25

# 概要

**Dell Command | Intel vPro Out of Band** for Microsoft Windows Server 2011/2012/2012 R2/2016/2019 Essentials は、帯域外管理ソリューションを提供する使いやすいアプリケーションです。このアプリケーションによって、クライアントシステムを、システムの電源状態に関係なくリモートで管理できます。

Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用すると、次のタスクを実行できます。

- **USB Provisioning** — インテル AMT 対応クライアントシステムをプロビジョニングしてセットアップします。
- **Client Selection** - 新しくプロビジョニングされたクライアントシステムを検出して追加します。
- **Indications** — Distributed Management Task Force (DMTF) フィルターを使用して、クライアントのリモート監視、診断、および管理を実施します。
- **Client Configuration** — 次のクライアントシステムの設定を行います。
  - **Power Profile** — 優先電源ポリシーを設定して適用します。
  - **Boot Order** — 起動順序を設定または変更します。
  - **BIOS Settings** — BIOS の設定およびアップデートを行います。
  - **BIOS Passwords** — **Administrator** および **System** のパスワードの長さをクリア、設定、または指定します。
- **Operations** — 次のリモート操作を実施します。
  - **KVM Connect** — KVM セッションの設定および実行を行います。
  - **Power Management** — 電源設定をリモートで管理します。
  - **Wipe Client Data** — クライアントのハードドライブをリモートでフォーマットします。
- **Reports** — 帯域外の管理性、プロビジョニングされたシステム、バッテリーの正常性、およびハードウェアインベントリのレポートを生成します。
- **Task Queue** - タスクの進行状況と詳細を監視します。

トピック：

- [新機能](#)
- [対応オペレーティングシステム](#)

## 新機能

このリリースの Dell Command | Intel vPro Out of Band では、次の新機能がサポートされています。

- Microsoft Windows Server 2019 Essentials のサポート
- アップデートされた BIOS 設定

## 対応オペレーティングシステム

次の表に、このアプリケーションの対応オペレーティングシステムのタイプと具体的なバージョンを示します。

### 対応クライアントオペレーティングシステム

- Windows 10 32 ビット
- Windows 10 64 ビット
- Windows 10 Professional 32 ビット
- Windows 10 Professional 64 ビット
- Windows 10 Enterprise 32 ビット
- Windows 10 Enterprise 64 ビット
- Windows 8.1 32 ビット
- Windows 8.1 64 ビット

- Windows 8.1 Professional 32 ビット
- Windows 8.1 Professional 64 ビット
- Windows 8.1 Enterprise 32 ビット
- Windows 8.1 Enterprise 64 ビット
- Windows 8 32 ビット
- Windows 8 64 ビット
- Windows 8 Professional 32 ビット
- Windows 8 Professional 64 ビット
- Windows 7 Professional 32 ビット
- Windows 7 Professional 64 ビット
- Windows 7 Ultimate 32 ビット
- Windows 7 Ultimate 64 ビット

## AMT で管理されたクライアント システムの対応オペレーティング システム

- Windows 10
- Windows 8.x
- Windows 7

## 対応サーバ オペレーティング システム

- Windows Server 2019 Essentials
- Windows Server 2016 Essentials
- Windows Server 2012 R2 Essentials
- Windows Server 2012 Essentials
- Windows Small Business Server 2011 Essentials

# Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール

本章では、Microsoft Windows Server 2011/2012/2012 R2/2016/2019 Essentials 用の Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストール、アンインストール、アップグレードする手順について説明します。

トピック：

- Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールするための前提条件
- Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール
- インストーラの修復オプションの使用
- Dell Intel vPro AMT プラグイン バージョン 1.1 または 1.0 からのアップグレード
- Dell Command | Intel vPro Out of Band のアンインストール

## Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールするための前提条件

このセクションでは、Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールするための前提条件をリストしています。

- Windows Server 2011/2012/2012 R2/2016/2019 Essentials をインストールします。Windows Server 2011 Essentials のインストール方法の詳細については、[technet.microsoft.com/library/home-client.aspx](https://technet.microsoft.com/library/home-client.aspx) の Microsoft TechNet サイトを、Windows Server 2012/2012 R2 Essentials のインストール方法の詳細については、[technet.microsoft.com/library/jj200119.aspx](https://technet.microsoft.com/library/jj200119.aspx) の Microsoft TechNet サイトを、Windows Server 2016 Essentials のインストール方法の詳細については、<https://docs.microsoft.com/en-us/windows-server-essentials/get-started/get-started> の Microsoft サイトをそれぞれ参照してください。
- インテル セットアップ アンド コンフィグレーション サービス (インテル SCS) 11.x 以降をダウンロードしてインストールします。
- .Net バージョン 4.5.2 クライアント プロファイル以降をインストールします。

## Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール

まず、Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールするシステムに管理者としてログインしていることを確認します。

1. [dell.com/support/downloads](https://dell.com/support/downloads) にアクセスします。
2. Dell Command | Intel vPro Out of Band 用のインストーラファイルをダウンロードします。
3. .exe ファイルを実行します。  
Dell Command | Intel vPro Out of Band の ようこそ 画面が表示されます。
4. **次へ** をクリックします。  
ライセンス契約 が表示されます。
5. **ライセンス契約に同意する** オプションを選択して、**次へ** をクリックします。  
クライアントシステムのデータソースを選択 画面が表示されます。
6. クライアントシステムのデータソースを選択します。
  - Dell Command | Intel vPro Out of Band 構成済みクライアント
  - Dell KACE 構成済みクライアント
7. **次へ** をクリックします。  
プログラムのインストール準備完了 画面が表示されます。
8. **インストール** をクリックします。  
インストールプロセスが完了すると、インストールは正常に完了しました 画面が表示されます。
9. **終了** をクリックします。

 **メモ:** Windows インストーラのログを表示する オプションを選択して、インストールログを確認します。


## インストーラの修復オプションの使用

この機能は、Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール時に発生した可能性のあるインストールに関する問題を修復します。

1. **Control Panel > Programs and Features** を開きます。
2. **Dell Command | Intel vPro Out of Band** を右クリックしてから **Repair** をクリックします。
3. パッケージをダウンロードしたフォルダから DCIV\_Setup\_3\_1\_0.exe パッケージを実行します。  
Dell Command | Intel vPro Out of Band の **Welcome** 画面が表示されます。
4. **Next** (次へ) をクリックします。
5. 次のウィンドウで **Repair** を選択し、**Next** をクリックします。  
**Ready to Modify the Program** 画面が表示されます。
6. **Install** (インストール) をクリックします。  
インストールが完了すると、**Installation Completed Successfully** 画面が表示されます。
7. **終了** をクリックします。  
**Show the Windows Installer log** オプションを選択して、インストール ログを確認します。

## Dell Intel vPro AMT プラグイン バージョン 1.1 または 1.0 からのアップグレード

Dell Command | Intel vPro Out of Band インストーラーを実行して、Dell Intel vPro AMT バージョン 1.0/1.1 から Dell Command | Intel vPro Out of Band バージョン 3.1 にアップグレードします。詳細については、「[Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール](#)」を参照してください。

 **メモ:** オペレーティングシステムやサービスタグなどのクライアント固有のデータは、Dell Intel vPro AMT バージョン 1.0 または 1.1 を使用して検出されたクライアントシステム上で Dell Command | Intel vPro Out of Band バージョン 3.1 にアップグレードした後は使用できません。アップグレード時にクライアント固有のデータを取得するには、クライアントシステムを再検出します。詳細については、「[クライアントの選択](#)」を参照してください。

## Dell Command | Intel vPro Out of Band のアンインストール

Dell Command | Intel vPro Out of Band をアンインストールするには、次の方法のいずれかを使用します。

- Windows から - **コントロールパネル > プログラムと機能** の順に開き、**Dell Command | Intel vPro Out of Band** を右クリックして、**アンインストール** をクリックします。
- アプリケーションのアンインストーラから -.exe ファイルをダブルクリックし、**削除** を選択して、画面の指示に従ってアンインストールを完了します。

# Dell Command | Intel vPro Out of Band の使用

この章では、Microsoft Windows Small Business Server ( SBS ) 2011/2012/2012 R2/2016 Essentials 用の Dell Command | Intel vPro Out of Band のインストール後に実行できるさまざまな操作について説明します。

トピック：

- Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動
- Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用する前に
- 設定
- USB プロビジョニング
- クライアントの選択
- インジケーション
- クライアントの設定
- 操作
- レポートの生成
- タスクキュー

## Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動

Windows Server 2011 Essentials を実行しているシステムの場合、次の手順に従います。

スタート > すべてのプログラム > Dell > Dell Command | Intel vPro Out of Band の順にクリックします。

Windows Server 2012/2012 R2 Essentials を実行しているシステムの場合、次の手順に従います。

スタート 画面を起動し、アプリ の一覧を参照して、Dell Command | Intel vPro Out of Band をクリックします。

Windows Server 2016 Essentials を実行しているシステムの場合、次の手順に従います。


スタート メニューを起動し、アプリケーション の一覧を参照して、Dell Command | Intel vPro Out of Band をクリックします。


## Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用する前に

Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用してクライアントシステムを帯域外で管理する前に、次の手順を実行します。

- Intel SCS を使用して、クライアントシステムをプロビジョニングします。
- すべてのアクティブなファイアウォールを無効にします。
- WinRM を設定します。「WinRM の設定」を参照してください。
- USB デバイスを使用して、クライアントシステムをプロビジョニングします。「USB デバイスを使用してプロビジョニング」を参照してください。
- Dell Command | Intel vPro Out of Band にアカウントをセットアップし、クライアントシステムを管理します。「アカウントのセットアップ」を参照してください。
- ネットワーク上の Intel Active Management Technology ( AMT ) 対応クライアントシステムを検出します。「クライアントの選択」を参照してください。

## WinRM の設定

 **メモ:** クライアント システムのファイアウォールを設定して WinRM コマンドを受け入れるようにします。

 **メモ:** 現在の WinRM 設定を取得するには、次のコマンドを使用します。winrm get winrm/config。グループ ポリシー オブジェクト制御の設定を使用している場合、コマンドによってこの情報が表示されます。

クライアント システムで、WinRm が設定されていない場合は、管理コマンド プロンプトに次のコマンドを入力します。

1. Winrm quickconfig を入力します。
2. プロンプト「Do you want to configure winrm?」が表示されたら、y を押して続けます。
3. winrm set winrm/config/client @{AllowUnencrypted="true"}
4. winrm set winrm/config/client/auth @{Digest="true"}
5. winrm set winrm/config/client @{TrustedHosts="MANAGEMENT\_SERVER\_IP\_ADDRESS"}  
WinRM が設定されました。

## 設定

設定 ウィンドウでは、次のような、アプリケーションのさまざまなコンポーネントのプリファランスを設定できます。

- アカウントのセットアップ
- インジケーション
- KVM
- タスクキュー
- ロギング

## アカウントのセットアップ

AMT 対応クライアントシステムを管理するために使用するアカウントをセットアップおよび設定できます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. 設定アイコンをクリックします。  
設定 画面に、**アカウントのセットアップ** タブが表示されます。
3. 次の詳細を設定します。
  - **オペレーティングシステム** のアカウント情報。
  - **AMT Management Engine** のアカウント情報。Dell Command | Intell vPro Out of Band をインストールして、KACE AMT システムを管理している場合は、次の設定を指定することもできます
  - AMT でプロビジョニングされたクライアントのオペレーティングシステム資格情報
  - AMT でプロビジョニングされたクライアントの AMT ME 資格情報
  - インベントリの API の K1000 資格情報
  - K1000 接続用のプロキシサーバ情報
4. **OK** をクリックします。

## KACE アカウントのセットアップ


KACE 管理下ネットワークにインストールした Dell Command | Intel vPro Out of Band で、KACE アカウント設定を指定します。

 **メモ:** KACE アカウント設定を指定するオプションは、KACE 管理下ネットワークに Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールしない限り使用できません。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。
2. **設定** アイコンをクリックします。
3. **KACE アカウントのセットアップ** タブをクリックします。
4. 次の詳細を設定します。
  - **KACE サーバ名** - KACE ソフトウェアがインストールされているサーバの完全修飾ドメイン名 ( FQDN ) です。
  - **KACE サーバのユーザー名** - KACE サーバ管理者のアカウントユーザー名です。
  - **KACE サーバのパスワード** - KACE サーバ管理者アカウントのパスワードです。
  - オプションで、**パスワードを表示** のチェックボックスを選択します。
5. **OK** をクリックします。


## インジケーション

保持日数およびリスナー IP アドレスなどのインジケーション設定を設定します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. 設定アイコンをクリックします。  
設定画面に、インジケーション タブが表示されます。
3. 次を設定します。
  - **保持日数** - クライアントイベントがデータベースに保存される日数であり、最小 7 日から最大 180 日の範囲です。イベントは、保持期間が経過すると削除されます。
  - **再試行日数** - インジケーションサービスがクライアント上の AMT サービスに接続を試みる日数。再試行日数のデフォルトおよび最大数は両方とも 3 日です。
  - **1日あたりの再試行回数** - インジケーションサービスがクライアント上の AMT サービスに接続を試みる 1 日あたりの回数。1 日あたりの最大試行回数およびデフォルトは、いずれも 3 回です。
  - **リスナー IP アドレス** - 使用可能なローカルサーバの IP アドレスから選択して、リスナー IP アドレスを指定します。デフォルトは、利用可能なローカルサーバ IP アドレスのリストの最初の IP アドレスです。  
 **メモ:** アクティブなサブスクリプションを実行している場合は、リスナー IP アドレスまたはポート番号は変更できません。
  - **ポート番号** - リスナー IP アドレスのポート番号です。デフォルト値は 65000 です。
4. **OK** をクリックします。


## すべてのサブスクリプションの解除

**すべてのサブスクリプションの解除** ボタンを使用して、インジケーション操作がネットワークパフォーマンスに負の影響を及ぼしている場合や、輻輳を削減したい場合にすべてのクライアントからすべてのサブスクリプションを解除します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. 画面の右上の設定アイコンをクリックします。  
設定画面に、インジケーション タブが表示されます。
3. **すべてのサブスクリプションの解除** をクリックします。  
 **メモ:** すべてのサブスクリプションを解除するには、現在サブスクリプションを実行しているクライアント数に応じて、しばらく時間がかかる場合があります。

## KVM

KVM およびユーザー同意セッションがタイムアウトする時間を指定するには、次の手順に従います。


1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. 設定アイコンをクリックします。
3. 設定画面で、**KVM** をクリックします。  
**KVM** タブが表示されます。
4. ユーザー同意セッションがタイムアウトする時間を **ユーザー同意応答のタイムアウト** フィールドに指定します。
5. 操作が一定の時間行われなかった後に KVM セッションがタイムアウトする時間を **セッションのタイムアウト** フィールドに指定します。  
 **メモ:** 値をゼロに設定すると、タイムアウトセッションが無効になります。
6. **OK** をクリックします。

## タスクキュー

タスクキューウィンドウに表示される完了タスク数を制限するための機能です。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。

詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。

2. ホーム 画面で、設定 アイコンをクリックします。
  3. 設定 画面で、**タスクキュー** をクリックします。  
タスクキュー ウィンドウが表示されます。
  4. 次の詳細を設定します。
    - **タスクキュー** - タスクキューを自動的に更新するには、スイッチを **オン** の位置にします。
    - **更新頻度** - タスクキューの更新頻度を 15~900 秒の範囲で設定します。
    - **履歴制限** - タスクキューデータベースに保存するタスクの数を 7~1095 の範囲で設定します。
-  **メモ:** 新規タスクの作成時に、完了、キャンセル、中断したタスクのみ削除されます。
5. **OK** をクリックします。

## ロギング

ログレベルの設定と、Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用してキャプチャするログの場所の設定を行います。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. ホーム 画面で、設定 アイコンをクリックします。
3. 設定 画面で、**ロギング** をクリックします。  
ロギング タブが表示されます。
4. **ログレベル** ドロップダウンメニューから、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **なし** - ログはキャプチャされません。
  - **通常** - クライアントシステムが正常に動作するための通常ログ。推奨される **ログレベル** 設定です。
  - **デバッグ** - 予期しない問題のトラブルシューティング用の詳細ログ。
5. **参照** をクリックして、ログファイルを作成する場所を選択します。
6. 既存のログを表示するには、**フォルダの表示** をクリックします。
7. **OK** をクリックします。

## USB プロビジョニング


Intel Active Management Technology ベースのクライアントシステムで帯域外を管理する前に、AMT 用のクライアントシステムをプロビジョニングします。


### USB デバイスを使用したプロビジョニング

リモート設定により Intel Management and Security Status アプリケーションを導入するには、ネットワーク上のクライアントシステムは、まずデジタルプロビジョニング証明書を取得する必要があります。

USB ストレージデバイスを使用して証明書のハッシュをクライアントシステムにエクスポートするには、次の手順に従います。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。  
**USB プロビジョニング** 画面が表示されます。
2. Management Engine ( ME ) パスワードを **現在のパスワード** セクションに入力し、**新しいパスワード** を AMT に入力して確認します。

 **メモ:** AMT パスワードは、大文字、小文字、数字、英数字以外の文字 ( : , \_ , " を除く ) 最小 8 文字で構成されている必要があります。

 **メモ:** Management Engine ( ME ) に最初に **現在のパスワード** を入力する際のデフォルトパスワードは *admin* です。
3. **USB キー** の項目から、**参照** をクリックし、USB ストレージデバイスの場所をポイントします。

4. USB ストレージデバイスのドライブのフォーマットを選択します。
5. 管理者がクライアントシステムのユーザー同意ポリシーを上書きできるようにするには、**ユーザー同意ポリシーのリモート設定を有効にする** オプションを選択します。
6. Hello パケットをすぐに送信する場合は、**OOB のプロビジョニング (有効にすると、Hello パケットがすぐに開始します)** オプションを選択します。
7. **消耗レコード** を選択して、プロビジョニングされているシステムを記録します。
8. 証明書ファイルを作成するために使用した **ハッシュアルゴリズム** の種類を選択します。
9. AMT プロビジョニング用にクライアントシステムに適用する **証明書ファイル** を参照して選択します。
10. 証明書ファイルのファイル名を入力します。
11. **キーの作成** をクリックします。  
USB プロビジョンキーが作成されます。

## クライアントの選択

ネットワーク上のプロビジョニングされた Dell クライアントシステムを検出する機能です。

1. **メモ:** Dell Command | Intel vPro Out of Band をインストールして Dell KACE AMT アセットを管理している場合、Dell KACE ソフトウェアが検出操作を管理しているため、検出機能は使用できません。
2. **メモ:** Windows ファイアウォールは、Dell Command | Intel vPro Out of Band によるクライアントシステムの検出をブロックする可能性があります。検出タスクを実行する前に、ファイアウォールを無効にしたことを確認してください。
3. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」(Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動) を参照してください。
4. **クライアントの選択** をクリックします。
5. **検出方法** でクライアントシステムの検出方法を選択します。
  - **DNS** - Dell Command | Intel vPro Out of Band を実行中のドメインと同じドメインのクライアントシステムを検索します。
  - **IP 範囲** - Dell クライアントシステムを検索する IP 範囲を指定します。
6. **検出されたクライアント** の一覧から管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックすると、選択したシステムが **選択されたクライアント** の一覧に移動されます。**>>** ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動されます。
7. 次のオプションのいずれかを選択して、データベースでクライアントシステムの一覧を変更します。
  - **新しいクライアントシステムのみ追加** - 選択されたクライアントシステムの一覧から以前に検出されなかったクライアントシステムを追加します。
  - **クライアントシステムを追加または更新** - すべての選択されたクライアントシステムを追加および更新します
  - **選択されたクライアントシステムをクリア** - 検出されたクライアントシステムの一覧から選択したクライアントシステムを消去します。
8. **終了** をクリックします。  
**メモ:** クライアントシステムが DCIV データベースに追加されるのを待ち、オペレーティングシステムやサーバスタグのようなクライアント別のデータにマウスを移動して表示します。

## インジケーション

Dell Command | Intel vPro Out Of Band アプリケーションでは、各クライアントを監視するために、Distributed Management Task Force (DMTF) フィルタ (インジケーション) を使用して、クライアントをリモートで監視、診断、および管理することが可能なインジケーション機能を提供します。

1. **メモ:** DMTF のフィルタの詳細については、DMTF のウェブサイト [www.dmtf.org](http://www.dmtf.org) を参照してください。

インジケーションでは、次のような診断イベントを監視できます。

- マザーボードエラー
- CPU の障害です
- 電源装置障害です
- メモリサブシステムの障害

インジケーション機能には、次の機能があります。

- 設定 - 機能の設定データを設定します
- ポリシー - フィルタを1つ、または複数のクライアントに適用可能なポリシーに関連付けます。
- サブスクリプションの設定 - ポリシーをネットワーク上のクライアントに関連付け、ポリシーをクライアントに適用します
- サブスクリプションのステータス - サブスクリプションを表示して管理します
- イベント - イベントを表示、管理、およびエクスポートします

## 推奨フィルタとオプションフィルタ

一部のインジケーションは、メッセージ多用向けです。クライアントに適用される場合は、これらのフィルタで、大量のメッセージが生成される可能性があるため、十分注意して使用する必要があります。ネットワークの輻輳を避けるために、一度にネットワーク上の単一クライアントに1つのオプションのフィルタのみを適用することができます。サポートされているフィルタ：

### 推奨フィルタ

- Intel® AMT: CorePlatform

### オプションフィルタ

**△ 注意:** 以下のオプションフィルタは、ネットワークパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があるため、十分に注意して使用してください。これらのフィルタの最適な使用方法として、単一のオプションフィルタを短期間、特定のクライアントに適用することで問題の診断を行う、などがあります。

- なし - デフォルト
- Intel® AMT: Platform
- Intel® AMT: ME Presence
- Intel® AMT: Features
- Intel® AMT: User
- Intel® AMT: FW ProgressEvents
- Intel® AMT: All

## ポリシー

ポリシー画面では、以前に作成されたインジケーションポリシーを表示したり、次のタスクを実行したりすることもできます。

- 新規ポリシーの作成
- ポリシーの編集
- ポリシーの削除

テーブルは、関連する列タイトルをクリックして、任意のフィールドを昇順または降順で並べ替えることができます。

## ポリシーの作成

1. インジケーション > ポリシーをクリックします。
2. **新規** をクリックします。  
ポリシーの作成画面が開きます。
3. 新しいポリシー名を入力します。この名前は、既存のポリシー名と同じにしてはならず、英数文字とスペースのみを含めることができ、最大 64 文字です。
4. ポリシーに含めるフィルタを選択します。新しいポリシーを作成するために少なくとも1つのフィルタを選択する必要がありますが、CorePlatform (推奨) フィルタとオプションフィルタの1つで構成される2つのフィルタを超えないようにする必要があります。一度のフィルタを使用するかの詳細については、「[推奨およびオプションフィルタ](#)」を参照してください。


**i** **メモ:** 与えられたポリシーに含めるために選択できるオプションフィルタは1つだけです。

5. **OK** をクリックします。  
新しいポリシーが、ポリシーテーブルに表示されます。

**i** **メモ:** ポリシーは、1つ、または複数のサブスクリプションに含まれたら、すぐに「アクティブ」と見なされます。


## ポリシーの編集


1. 左側のペインで **インジケーション > ポリシー** をクリックします。
2. 編集するポリシーを選択します。

 **メモ:** 非アクティブのポリシーだけを編集できます。


編集ボタンがアクティブになります。

3. **編集** ボタンをクリックします。  
ポリシーの編集画面が開きます。
4. ポリシーに必要な変更を加えます。

 **メモ:** ポリシーを保存する前に、フィルタを少なくとも1つ選択する必要があります。


 **注意:** オプションフィルタは、ネットワークのパフォーマンスに影響を与える可能性があるために、十分に注意して使用してください。これらのフィルタの最適な使用方法として、単一のオプションフィルタを短期間、特定のクライアントに適用することで問題の診断を行う、などがあります。

5. **OK** をクリックします。

 **メモ:** サブスクリプションに含まれるまで、ポリシーはアクティブではありません。

## ポリシーの削除

1. 左側のペインで、**インジケーション > ポリシー** をクリックします。
2. 削除するポリシーを選択します。

 **メモ:** 非アクティブのポリシーのみを削除することができます。

削除ボタンがアクティブになります。

3. **削除** ボタンをクリックします。

## サブスクリプションの設定

サブスクリプションは、ネットワーク上のクライアントから1つ、または複数のクライアントが選択された1つのポリシーのコレクションです。サブスクリプションの設定画面から、以前に作成したサブスクリプションを表示したり、次の操作を実行したりすることができます。

- 新規サブスクリプションの作成
- サブスクリプションの編集
- サブスクリプションの削除
- サブスクリプションの実行 ( 選択したクライアントにサブスクリプションを適用 )
- サブスクリプションの解除 ( クライアントからサブスクリプションを削除 )

各サブスクリプション行は以下のさまざまな状態のいずれかです。

- 保留中
- 実行中
- 停止中
- 完了
- エラーで終了
- 停止

昇順または降順で任意のフィールド別にサブスクリプションテーブルを並べ替えるには、関連する列タイトルをクリックします。

サブスクリプションテーブルの列:

- サブスクリプション名
- 動作
- 修飾子 - 操作を変更します。Currently Stop は唯一の修飾子です。
- ステータス - サブスクリプションのステータスです。単一のクライアントが保留中または再試行状態のままの場合、サブスクリプションのステータスはエラーで終了しましたとなります。

- ポリシー名
- ポリシーフィルタ
- クライアント - 1つのクライアントがサブスクリプションに含まれている場合は、その完全修飾ドメイン名 ( FQDN ) がテーブルにリストされます。サブスクリプションに含まれるクライアント FQDN が 2 つ以上あるときにリストを表示するには、列の **複数...** ハイパーリンクをクリックします。

サブスクリプションテーブルを更新するには、**更新** ボタンをクリックします。

## サブスクリプションの作成

**i** **メモ:** サブスクリプションを作成する前に、少なくとも 1 つのポリシーを作成し、クライアントを利用可能にする必要があります。

1. **インジケーション > サブスクリプションの設定** をクリックしてから、**新規** ボタンをクリックします。  
サブスクリプションの作成画面が表示されます。
2. サブスクリプションの名前を入力します。この名前は一意で、英数文字とスペースのみを含み、最大 64 文字とする必要があります。
3. サブスクリプションに含めるポリシーを選択します。
4. **次へ** をクリックします。  
クライアントの**選択**画面が表示されます。
5. オプションで、**クライアントの検索** フィルタを使用して、使用可能なクライアントのリストを制限します。

**i** **メモ:** このサブスクリプションのために選択したポリシーに推奨ポリシーだけが含まれる場合は、このサブスクリプションを適用する使用可能なクライアントのリストから複数のクライアントを選択できます。ただし、このサブスクリプションのために選択したポリシーにオプションフィルタの 1 つが含まれる場合、選択できるクライアントは 1 つだけです。

6. 左側のリストから 1 つ、または複数の適切なクライアントを選択してから、それらを右側に移動します。
7. **終了** をクリックします。

## サブスクリプションの編集

1. **インジケーション > サブスクリプションの設定** をクリックします。

**i** **メモ:** アクティブなサブスクリプションを編集することはできません。

2. 編集するサブスクリプションを選択します。
3. **編集** ボタンをクリックします。  
サブスクリプションの**編集**画面が表示されます。
4. サブスクリプションの**編集**画面で必要な変更を行い、**次へ** をクリックします。
5. **選択**したクライアントの**編集**画面で必要な変更を行い、**終了** をクリックします。

## サブスクリプションの削除

1. **インジケーション > サブスクリプションの設定** をクリックします。

**i** **メモ:** アクティブなサブスクリプションを削除することはできません。

2. 削除する設定を選択します。
3. **削除** ボタンをクリックします。

## サブスクリプションの適用

**i** **メモ:** リスナーの IP アドレス設定が設定されていない場合は、新しいサブスクリプションを適用することはできません。**設定** > **インジケーション** をクリックし、リスナーの IP アドレスを設定します。

❶ **メモ:** 既存のアクティブなサブスクリプションと同じ1つ、または複数のフィルタまたは1つ、または複数のクライアントを含む新しいサブスクリプションを適用することはできません。

❶ **メモ:** メッセージ多用向けフィルタのいずれかを含む別のサブスクリプションがアクティブな場合に、オプションフィルタのいずれかを含むサブスクリプションを適用することはできません。

❶ **メモ:** すべてのタスクのサブスクリプションを解除 タスクが進行中の場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。

❶ **メモ:** インジケーションサービス ( DellAweSvc ) が実行中でない場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。 サービスコンソールでサービスのステータスを確認します。

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。
2. 適用するサブスクリプションを選択します。
3. サブスクリプションの実行 をクリックします。

## サブスクリプションの解除

❶ **メモ:** すべてのタスクのサブスクリプションを解除 タスクが進行中の場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。

❶ **メモ:** インジケーションサービス ( DellAweSvc ) が実行中でない場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。 サービスコンソールでサービスのステータスを確認します。

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。
2. 解除するサブスクリプションを選択します。
3. サブスクリプションの解除 をクリックします。

## サブスクリプションのステータス

サブスクリプションのステータス画面で、サブスクリプションのステータスを表示できます。作成した各サブスクリプションについて、およびサブスクリプションのポリシーに含まれる各フィルタについて、サブスクリプションが適用される各クライアントは、個別の行に表示されます ( フィルタの数 × クライアントの数 = サブスクリプションごとのテーブル項目数 )。各サブスクリプション / クライアントの行の状態は、次のいずれかになります。

- 準備完了
- 再試行の保留中
- 処理中
- 成功
- エラー
- 停止

そのフィールドのいずれかによりサブスクリプションを昇順または降順にソートするには、適切な列タイトルをクリックします。テーブルのカラムは、次のいずれかです。

- サブスクリプション名
- 動作
- 修飾子
- ステータス
- クライアント
- ポリシーのフィルタ

サブスクリプションステータステーブルを更新するには、更新ボタンをクリックします。

## サブスクリプションの停止

1つ以上のサブスクリプションの行が準備完了、処理中、または再試行保留中である場合は、サブスクリプションを停止することができます。サブスクリプションを停止しても、成功または失敗の状態であるサブスクリプションの行には影響しません。サブスクリプションを停止したら、サブスクリプションの設定画面に戻り、サブスクリプションを編集、削除、適用、または解除することができます。

**メモ:** 1つのクライアントでサブスクリプションを停止すると、その停止がそのサブスクリプションが適用されていたすべてのクライアントに適用されます。

1. **インジケーション > サブスクリプションのステータス** をクリックします。
2. 停止するサブスクリプションを選択します。
3. **サブスクリプションの停止** をクリックします。

## イベント

イベント画面には、サブスクリプションの適用後に返されるインジケーションのリストが表示されます。この画面からは、イベントのリストは表示のみが可能ですが、リストを\*.csvファイルにエクスポートすることもできます。特定のタイプのイベントをもちや追跡する必要がなくなった場合は、イベントのメッセージIDをブラックリストに追加することができます。これにより、イベントが発生し続けても、ブラックリストからそれらを削除するまで、保存されなくなります。

イベントリストは、日付列でのみソート可能です。イベントリストで提供されるその他の情報は、以下のとおりです。

- クライアント - イベントを生成するクライアントシステム。
- メッセージID - イベントタイプです。多くのイベントが同じメッセージIDを共有することがあります。
- 説明 - イベントの簡単な説明です。
- 重要度 - 起こりうるイベントの重要度レベルには、未知、その他、情報、警告、軽微、重度、危機的、致命的があります。
- アラートのタイプ - 起こりうるアラートタイプには、その他、通信、サービス品質、処理エラー、デバイス、環境、モデル変更、セキュリティがあります。

イベントカウンタは、画面の右上部分に表示されます。更新ボタンをクリックすると、イベントカウンタが更新され、イベントリストが更新されます。

**メモ:** イベントカウンタは、イベントリストの中の表示されるイベントの数ではなく、保存されているすべてのイベントの数を示します。

## イベントの表示

イベントリストを表示するには、以下の手順を実行します。

1. 左側のペインで **インジケーション > イベント** をクリックします。
2. オプションで、フィルタを使用してイベントリストに表示されるイベントを制限します。

**メモ:** イベントカウンタは、イベントリストの中の表示されるイベントの数ではなく、保存されているすべてのイベントの数を示します。

- a. **フィルタ設定** をクリックします。  
イベントフィルタの設定画面が表示されます。
- b. フィルタ方式を、なし、クライアント、メッセージID、クライアント、またはメッセージIDから選択します。
- c. **次へ** をクリックし、選択したフィルタオプションにより、**クライアント** および/または **メッセージID** を選択します。
- d. **終了** をクリックします。  
イベントリストを更新します。

## ブラックリストへのイベントの追加

イベントの特定のタイプ(メッセージID)をイベントリストから表示されないようにするには、これらのタイプを次のようにブラックリストに追加します。

1. 左側のペインで、**インジケーション > イベント** をクリックします。
2. メッセージIDを選択し、適切なボックスにチェックマークを付けて、ブラックリストに追加します。
3. **ブラックリストに追加** をクリックします。

選択したイベントのメッセージIDがブラックリストに追加されます。

**メモ:** メッセージIDがブラックリストに追加されたら、同じメッセージIDを持つ以前のイベントはイベントリストに残りません。そのメッセージIDを持つ新しいイベントのみが破棄されます。

**メモ:** すべてのイベントをブラックリストに追加すると、すべての、またはほぼすべての新しいイベントが破棄されます。

## ブラックリストからのイベント削除

ブラックリストからメッセージ ID を削除して、それらのタイプのイベントが破棄されることがないようにするには、次の作業を行います。

1. 左側のペインで **インジケーション > イベント** をクリックします。
2. **ブラックリストの管理** をクリックします。  
イベントのブラックリスト画面が表示されます。ブラックリストに登録されたイベントは、メッセージ ID または説明フィールドによりソートできます。
3. メッセージ ID を選択して、適切なボックスにチェックマークを付けて、ブラックリストから削除します。
4. **ブラックリストから削除** をクリックしてから **閉じる** をクリックします。  
削除されたメッセージ ID を含む新しいイベントが破棄されなくなり、イベントリストに表示されます。

## イベントのエクスポート

イベントのリストを \*.csv ファイルにエクスポートするには



1. 左側のペインで **インジケーション > イベント** をクリックします。
2. 適切なボックスにチェックマークを付けて、エクスポートするイベントを選択します。
3. **エクスポート...** をクリックします。
4. イベントリストファイルを保存する場所に移動して、**保存** をクリックします。  
選択したイベントが \*.csv ファイルに保存されます。

## クライアントの設定

対象のクライアントシステムで、電源プロファイル、起動順序、BIOS 設定項目、BIOS パスワードを設定できます。

### 電源プロファイルの設定

Dell Command | Intel vPro Out of Band によって管理されるクライアントシステム上のさまざまな電源プロファイルを定義します。クライアントシステムのさまざまな電源状態 (S0~S5) で、Wake-up On Lan (WOL)、電源損失後の電源オン/オフなどの機能を制御できます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」(Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動) を参照してください。
2. **クライアントの設定 > 電源プロファイル** の順にクリックします。
3. デスクトップまたはモバイルコンピュータの電源ポリシーを選択します。**次へ** をクリックします。  
**クライアントの選択** タブが表示されます。
4. 電源パッケージを適用するクライアントシステムを検索します。
5. **検出されたクライアント** の一覧から管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックすると、選択したシステムが **選択されたクライアント** の一覧に移動されます。**>>** ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動されます。
6. **次へ** をクリックします。  
**タスクのスケジュール** タブが表示されます。
7. 変更をすぐに適用するか、スケジュールして後で実行するかを選択できます。  
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
  - **今すぐ実行** - 電力プロファイルへの変更はすぐに適用されます。
  - **実行スケジュール** - 電力プロファイルへの変更は、**タスクキュー** に入れられます。
    -  **メモ:** **タスクキュー** を開いて、完了済みおよび保留中のタスクの一覧を表示できます。
    -  **メモ:** クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合は、クライアントシステムがオンラインに復帰した後にタスクを再実行します。
8. 実行するタスクに名前を付けて、**次へ** をクリックします。  
**サマリ** タブが表示されます。
9. **終了** をクリックします。

タスクキューウィンドウが起動し、タスクのスケジュールに応じて、タスクが即座に実行開始されるかキューに入れられます。

## 起動順序の設定

対象クライアントシステムの起動順序を変更または設定します。レガシー起動デバイス搭載のクライアントシステムでは、永続的または一回限りの起動順序の変更を行うことができます。

**メモ:** この起動順序機能は、UEFI 起動モードではサポートされていません。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. クライアントの設定 > 起動順序 の順にクリックします。
3. 設定可能な起動デバイスの一覧が表示されます。起動順序を変更するには、次の手順に従います。
  - 起動デバイスの順番を上下に移動するには、表の下にある **上** または **下** 矢印をクリックします。
  - 起動デバイスを無効にするには、起動デバイスの横にあるチェックボックスを選択または選択解除します。
4. 次の設定オプションのいずれかを選択します。
  - **1 回限りの起動設定** - 起動順序を再起動サイクル 1 回に限り変更する場合。
    - メモ:** このオプションが選択されていない場合は、起動順序が永続的に変更されます。
  - **エラー時に続行** - エラーの発生時に、後続クライアントシステムでタスクの実行を継続するには、**エラー時に続行** オプションを選択します。その他の場合は、エラーが発生した最初のクライアントシステムでタスクの実行は停止します。
  - **変更適用後にクライアントを再起動** - 変更を適用後、クライアントシステムを再起動する場合。
5. **次へ** をクリックします。  
クライアントの**選択** タブが開きます。
6. 起動順序の変更を適用するクライアントシステムを検索します。
7. **検出されたクライアント** の一覧から管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックすると、選択したシステムが **選択されたクライアント** の一覧に移動されます。**>>** ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動されます。
8. **次へ** をクリックします。  
**タスクのスケジュール** タブが表示されます。
9. 変更をすぐに適用するか、スケジュールして後で実行するかを選択できます。  
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
  - **今すぐ実行** - 起動順序の変更はすぐに適用され、**タスクキュー** に **実行中** のステータスが表示されます。
  - **実行スケジュール** - 起動順序の変更は **タスクキュー** に入れられます。
    - メモ:** **タスクキュー** を開いて、完了済みおよび保留中のタスクの一覧を表示できます。
- メモ:** クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合は、タスクを再度実行します。
10. 実行するタスクに名前を付けて、**次へ** をクリックします。  
**サマリ** タブが表示されます。
11. **終了** をクリックします。  
タスクキューウィンドウが起動し、タスクのスケジュールに応じて、タスクが即座に実行開始されるかキューに入れられます。

## BIOS 設定の指定

単一または複数のクライアントシステム上で、BIOS 設定をリモートで指定、変更、リセットします。BIOS 設定テーブルに表示されている設定は、現在の BIOS 設定名です。レガシーシステムでは別の BIOS 設定名が使用される場合があります。ただし、BIOS 設定テーブルで更新された設定名を使ってアクセスできます。斜体で示されている BIOS 設定名は、レガシーシステムでのみ使用可能な BIOS 設定を示します。

**メモ:** サポートされている BIOS 設定オプションは、各クライアントシステムごとに異なります。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. クライアントの設定 > **BIOS 設定** の順にクリックします。
3. クライアントシステムの BIOS 設定に変更を加えます。

4. オプションで、タスク処理のオプションを選択できます。
  - **処理を続行します。エラー時に停止しない** - アプリケーションは、次に選択された BIOS 設定を現在および後続のクライアントに適用し続けます。
  - **次のクライアントに続行するが、エラー時にこのクライアントの処理を停止する** - アプリケーションは、エラーが発生したクライアントに BIOS 設定を適用せず、その他の選択したクライアントに移動します。
  - **変更適用後にクライアントを再起動**
5. **次へ** をクリックします。  
クライアントの**選択** タブが表示されます。
6. BIOS 設定を適用するクライアントシステムを検索します。
7. **利用可能なクライアント** の一覧から管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックすると、選択したシステムが**選択されたクライアント** の一覧に移動されます。**>>** ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動されます。
8. **次へ** をクリックします。  
タスクの**スケジュール** タブが表示されます。
9. 変更をすぐに適用するか、スケジュールして後で適用するかを選択できます。  
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
  - **今すぐ実行** - BIOS 設定の指定はすぐに適用され、**タスクキュー** に**実行中** のステータスが表示されます。
  - **実行スケジュール** - BIOS 設定の指定は、**タスクキュー** に入れます。



**i** **メモ:** タスクキューを開いて、完了済みおよび保留中のタスクの一覧を表示できます。

**i** **メモ:** Dell クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
10. BIOS 属性変更の簡単な説明を入力して、**次へ** をクリックします。  
**サマリ** タブが表示されます。
11. **終了** をクリックします。  
タスクキューウィンドウが起動し、タスクのスケジュールに応じて、タスクが即座に実行開始されるかキューに入れます。

## BIOS パスワードの設定

BIOS パスワードの管理、パスワードの設定および消去、パスワード長の要件の変更などを行います。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. **クライアントの設定 > BIOS パスワード** の順にクリックします。  
**BIOS パスワード** タブが表示されます。
3. 次のいずれかのオプションを選択します。
  - **クリア - 管理者** または **システム** のパスワードのいずれかを消去します。  
**i** **メモ:** **管理者** パスワードを消去する前に、**システム** パスワードを消去します。
  - **設定 - 管理者** または **システム** のパスワードを入力して確認します。  
**i** **メモ:** **管理者** または **システム** のパスワードを設定した後に、クライアントシステムを再起動する必要があります。
  - **長さ - 管理者** および **システム** のパスワードの最小および最大の長さを指定できます。
4. エラーが発生したときにタスクの実行を後続のクライアントシステムで引き続き行う場合は、**エラー時に続行** オプションを選択します。その他の場合は、エラーが発生した最初のクライアントシステムでタスクの実行は停止します。
5. 変更の適用後に再起動する場合は、**変更適用後に再起動** オプションを選択します。
6. **次へ** をクリックします。  
クライアントの**選択** タブが表示されます。
7. 起動順序の変更を適用するクライアントシステムを検索します。
8. **利用可能なクライアント** の一覧から管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックすると、選択したシステムが**選択されたクライアント** の一覧に移動されます。**>>** ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動されます。
9. **次へ** をクリックします。  
タスクの**スケジュール** タブが表示されます。
10. パスワードの変更をすぐに適用するか、スケジュールしてあとで実行するかを選択できます。  
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。

- **今すぐ実行** - BIOS パスワードの設定はすぐに適用され、**タスクキュー** に **実行中** のステータスが表示されます。  
 **メモ:** Dell クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
- **実行スケジュール** - BIOS パスワードの設定は、**タスクキュー** に入れられます。  
 **メモ:** **タスクキュー** を開いて、完了済みおよび保留中のタスクの一覧を表示できます。

11. 適用する変更の簡単な説明を入力して、**次へ** をクリックします。  
 サマリ タブが表示されます。


12. **終了** をクリックします。  
 タスクキュー ウィンドウが起動し、タスクのスケジュールに応じて、タスクが即座に実行開始されるかキューに入れられます。


## 操作

KVM セッションをセットアップしたり、Dell クライアントシステムをオン/オフおよび再起動したり、リモートで Dell クライアントシステムのハードドライブを消去したりする機能です。

## KKVM セッションの確立

Intel Graphics カードを搭載したクライアントシステムのプライマリモニタまたはセカンダリモニタ（ある場合）をリモートに表示する機能です。詳細に関しては、[dell.com/support/manuals](https://dell.com/support/manuals) のクライアントシステムのマニュアルを参照してください。

 **メモ:** リモート KVM セッションを確立するには、まず Intel Management Engine BIOS Extension (MEBx) インタフェースを介して KVM を有効にします。


 **メモ:** 操作が一定の時間行われず、KVM セッションがタイムアウトした場合は、再度セッションを確立してください。タイムアウト時間を指定する方法については、「[KVM](#)」を参照してください。[KVM](#)、p. 11

リモートクライアントシステムと KVM セッションを確立するには、次の手順に従います。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
 詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. **操作 > KVM 接続** の順にクリックします。  
**KVM 接続** タブが表示されます。
3. KVM セッションを確立するクライアントシステムの一覧を検索します。
4. KVM セッションを開始するクライアントシステムを選択し、**接続** をクリックします。

## 電力管理の実施


AMT 操作で有効になった Windows オペレーティングシステムを介して、クライアントシステムを正常にシャットダウンまたは再起動する機能です。

 **メモ:** Dell Command | Intel vPro Out of Band による正常な電源リクエストは、Windows ファイアウォールによってブロックされます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
 詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. **操作 > 電力管理** をクリックします。  
**電源管理** タブが表示されます。
3. ドロップダウンリストから、クライアントシステムで実行する電源制御オプションを選択します。
4. **次へ** をクリックします。  
**クライアントの選択** タブが表示されます。
5. 電源管理の変更を適用するクライアントシステムを検索します。
6. **検出されたクライアント** の一覧から管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックすると、選択したシステムが **選択されたクライアント** の一覧に移動されます。**>>** ボタンを押すと、検出されたすべての Dell クライアントが移動されます。
7. **次へ** をクリックします。  
**タスクのスケジュール** タブが表示されます。

8. タスクをすぐに適用するか、スケジュールしてあとで実行するかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
  - **今すぐ実行** - 電源管理の変更はすぐに適用され、**タスクキュー** に **実行中** のステータスが表示されます。
    - ① **メモ:** Dell クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
  - **実行スケジュール** - 電源管理の変更は **タスクキュー** に入れます。
    - ① **メモ:** **タスクキュー** を開いて、完了済みおよび保留中のタスクの一覧を表示できます。
9. 適用する変更の簡単な説明を入力して、**次へ** をクリックします。サマリ タブが表示されます。
10. **終了** をクリックします。

## クライアントデータの消去

 **注意:** クライアントシステム上のすべてのデータを削除します。

① **メモ:** クライアントのハードドライブをリモートで消去するには、完了まで数時間かかる場合があります。

クライアントデータの消去機能は、サポート対象クライアントシステムのハードドライブのデータをリモートで削除します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. **操作 > クライアントデータの消去** の順にクリックします。
3. **クライアントデータの消去** を選択した後、次の操作のいずれかを実行できます。
  - **スケジュール** - クライアントシステムのハードディスクを消去する時間をスケジュールします。詳細については、「[Scheduling Wipe Client Data](#)」( クライアントデータ消去のスケジューリング ) を参照してください。
    - ① **メモ:** クライアントデータのリモート消去の操作をスケジュールするには、ネットワーク経由でクライアントにアクセスできる必要があります。
  - **取得** - クライアントシステムのハードディスク消去のステータスを取得します。詳細については、「[Retrieving Wipe Client Data Status](#)」( クライアントデータ消去ステータスの取得 ) を参照してください。

## クライアントデータ消去のスケジュール設定

クライアントデータ消去機能を使用すると、サポート対象のクライアントシステムのハードドライブ上のデータをリモートで削除できます。クライアントデータ消去のスケジュールを設定するには、以下の作業を行います。

1. **スケジュール** を選択して **次へ** をクリックします。  
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. リモートデータ消去をスケジュールするクライアントシステムを検索します。
3. **使用可能なクライアント** リストから、管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックして、選択したシステムを移動します。または **>>** ボタンを押して、発見されたすべての Dell クライアントを **選択済みクライアント** リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。
5. **タスクのスケジュール** タブが表示されます。
6. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
  - **今すぐ実行** - クライアントデータ消去操作がすぐに適用され、タスクキュー内の実行ステータスが表示されます。
    - ① **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
  - **実行待ち** - クライアントディスク消去操作をタスクキューに入れます。
    - ① **メモ:** タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
7. 適用しているタスクの手短な説明を入力して、**次へ** をクリックします。
  - ① **メモ:** **消去後のクライアントデータの取得** タスクを実行して、クライアントシステムのハードドライブが正常にフォーマットされたことを確認することをお勧めします。詳細については、[消去後のクライアントデータの取得](#) を参照してください。
8. **終了** をクリックします。

## クライアントデータ消去ステータスの取得

**メモ:** 取得 を使用すると、クライアントデータ消去操作のステータスを要求します。

**メモ:** リモートハードドライブ消去コマンドをサーバからクライアントシステムに発行したあと、タスクのステータスは **完了** に変化します。クライアントシステムのフォーマット処理は、このステータスが **完了** に変化したあとでのみ開始します。

ステータスを取得するには、次の作業を行います。

1. **取得** を選択し、**次へ** をクリックします。  
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. クライアントデータ消去のステータスを取得するクライアントシステムを選択します。
3. **使用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**>** ボタンをクリックして、**選択したシステム**を移動します。または **>>** ボタンを押して、**発見されたすべての Dell クライアント**を **選択済みクライアント** リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。
5. **タスクのスケジュール** タブが表示されます。
6. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
  - **今すぐ実行** - クライアントデータ消去操作のステータスがすぐに取得され、タスクキューに実行中ステータスが表示されます。  
**メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
  - **実行待ち** - ステータスは、タスクキューの中で待機中です。  
**メモ:** タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
7. 適用する変更についての短い説明を入力して、**次へ** をクリックします。  
**サマリ** タブが表示されます。
8. **終了** をクリックします。

## レポートの生成

帯域外管理性、プロビジョニング、ノートパソコンのクライアントシステムのバッテリー正常性に関する詳細レポート、単一または複数のクライアントシステムのハードウェアインベントリに関するレポートを生成および表示します。レポートは、スプレッドシートにエクスポートできます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band を起動します。  
詳細については、「[Launching Dell Command | Intel vPro Out of Band](#)」( Dell Command | Intel vPro Out of Band の起動 ) を参照してください。
2. ホーム 画面で、**レポート** をクリックします。
3. ようこそ 画面で、次のレポートを生成できます。
  - **帯域外管理性** - クライアントシステムの AMT Management Engine の設定を確認できます。
  - **プロビジョニング** - ネットワーク上のすべてのクライアントシステムのプロビジョニングステータスを表示します。
  - **バッテリー正常性** - ネットワーク上のすべての AMT 対応クライアントシステムのバッテリー状態を表示します。
  - **ハードウェアインベントリ** - ネットワーク上のすべてのクライアントシステムのインベントリ情報を収集します。
4. 必要なレポートの種類を選択した後、次のアクションのいずれかを実行できます。
  - **スケジュール** - 詳細に関しては、「[レポートのスケジュールリング](#)」を参照してください。
  - **取得** - 詳細に関しては、「[レポートの取得](#)」を参照してください。

## レポートのスケジュール

ネットワーク上で選択されたクライアントシステムのレポートを生成します。レポートをスケジュールするには、次の手順を実行します。

1. **スケジュール** をクリックします。  
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. レポートを表示したいクライアントシステムのリストを検索します。

3. **利用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**▶** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**▶▶** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを **選択したクライアント** リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。  
タスクのスケジュール タブが表示されます。
5. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
  - **今すぐ実行** - レポートのスケジュールタスクは直ちに適用され、タスクキューに **実行中** ステータスが表示されます。
    - ① **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
  - **実行待ち** - レポートのスケジュールタスクがタスクキューで待ち状態になります。
    - ① **メモ:** タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
6. タスクの名前を入力して **次へ** をクリックします。  
サマリ タブが表示されます。
7. **終了** をクリックします。  
タスクキュー ウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

## レポートの取得

① **メモ:** レポートの取得では、**スケジュールされたレポート** を介して収集されたデータのレポートを要求します。

既存のレポートを表示します。レポートを取得するには、次の手順を実行します。

1. **取得** をクリックします。  
**クライアントの選択** タブが表示されます。
2. レポートを表示したいクライアントシステムのリストを検索します。
3. **利用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**▶** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**▶▶** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを **選択したクライアント** リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。
5. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。  
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
  - **今すぐ実行** - レポートの取得タスクは直ちに適用され、タスクキューに **実行中** ステータスが表示されます。
    - ① **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
  - **実行待ち** - レポートの取得タスクがタスクキュー で待ち状態になります。
    - ① **メモ:** タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
6. タスクの名前を入力して **次へ** をクリックします。  
サマリ タブが表示されます。
7. **終了** をクリックします。  
タスクキュー ウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

## タスクキュー

タスクキュー ウィンドウでは、スケジュールされたタスクや完了したタスクを確認することができます。次の操作も実行できます。

- **更新** - タスクキューを更新します。
- **表示** - タスクキュー内の各タスクの詳細情報を取得します。**エクスポート** をクリックして、情報を Excel ファイルにエクスポートします。
- **再実行** - タスクが正常に実行されたクライアントシステムをスキップして、クライアントシステムで失敗した既存タスクを再実行します。タスクがエラーなしで完了した場合は、**再実行** をクリックすると、タスク内のすべてのクライアントシステムが再起動されます。
- **取得** - レポートタスクのパスを取得 (スケジュールではなく) します。
- **編集** - 保留中 (実行の待機中) のタスクを編集します。タスクの編集中は、**保留** になります。
- **複製** - すべての保留中、完了済み、キャンセル済みのタスクを複製します。
- **キャンセル** - まだ **完了** していないタスクをキャンセルします。